

我が校における青少年赤十字活動 ～東日本大震災への支援を中心に～

伊佐市立羽月北小学校 下入佐 幸二

1 はじめに（学校紹介）

(1) 校 区

本校区は、伊佐市西部の山間部（標高約370m）に位置し、学校は豊かな自然に囲まれ、恵まれた環境の中にある。校区の面積は約11km²あり、校区の南側を国道447号線が通り、伊佐～出水間の交通の要所となっている。校区民は戦後の開拓入植者が多く、全戸数は71戸、人口約230人余りであるが地域全体での高齢化が進んでいる。しかし、全戸がPTAの会員となり、学校での奉仕作業や運動会等諸行事には進んで参加するなど、大変協力的である。また、学校教育への関心も高く、地域の教育力を生かした児童の健全育成を目指している。児童数の減少に伴い、平成17年度、特認校の指定を受け、児童数増に取り組んでいるところである。

(2) 児 童

児童数が昭和34年の162人をピークに減少を続け、平成19年度からは1桁となっている。豊かな自然を生かした活動や校区民との交流等を通して、優しく、素直な性格をもっている。様々な人間関係つくりの経験の場を求めて、近隣の学校との交流学習を設定している。

＜児童数等の推移＞（各年度の5月1日現在）

	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
児童数	16	13	14	12	12	13	11	10	9	11	8	6	3	2	2
学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1	1	1
職員数	9	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	4	3	3	3

2 東日本大震災の支援活動の概要（実践と予定）

	時期・期日	取組内容	
1	3月15日～ 3月25日	応援横断幕を制作しよう	材料費の確保 支援者の依頼通知 送付先の確認・依頼
2	4月18日～ 7月 1日	四葉のクローバーのしおりを被災地に送ろう (総合的な学習の時間、学級活動、児童会活動)	クローバーの押葉 台紙の制作 送付先の確認・依頼
3	6月2日～ 7月15日	被災地の状況を調べよう ・ 被災地支援に参加した方の話を聞こう ・ 被災地で必要なものも調べよう	講師依頼 インターネットでの調べ学習（支援サイト）
4	夏休み～ 9月30日	被災地の学校と交流しよう	学校だより、ブログの活用
5	11月1日～ 12月16日	手作りカード（ハガキ）を送ろう	牛乳パックの紙漉き シール作り メッセージ記入

3 東日本大震災の支援活動事例

(1) 応援横断幕を制作しよう

① ねらい

- ア 被災地へ支援をしたいという児童や保護者、教職員、校区の方々の思いを実現するため
- イ 青少年赤十字加盟校としてボランティア活動の一環として取り組ませる。
- ウ 極小規模校として保護者や校区と協力しできる範囲のものを制作することにより、互いの連携を深める。

② 実施期日

当初計画 3月15日～3月18日
実際 3月15日～3月25日

③ 応援横断幕概観



応援横断幕の制作や送付を通して

- 見知らぬ人々とつながり合い、支え合う心情や態度を培うことができた。
- 生命尊重の心情や助け合いの心、畏敬の念を学ばせることができた。
- 学校を中心に保護者や校区住民、近隣の学校、多くの支援者と同じ活動を通してつながるよさを感じさせることができた。
- 多くの共感者、賛同者を得て、ボランティア活動への自信を得ることができた。
- 福島市の児童からのお礼状に逆に勇気や元気をもらうことができた。
- 青少年赤十字の各支部のネットワークに支えていただいた。
- 時間の確保、予算的な負担がやや大きかった。
- 児童のアイデアや意見等をもう少し取り入れる必要がある。
- 被災地のニーズに応じた内容を考え直す。

(2) 四葉のクローバーのしおりを被災地に送ろう

① ねらい

- 東日本大震災の被災地の学校やそこで生活する子どもたちといっしょにがんばっていこうという気持ちを届ける。
- 希望や願い、夢をみんなで少しでもかなえていけるようにする。

② 実施期日

当初計画 4月18日～7月1日

③ 活動計画

段階	活動内容	留意点等
1次	1 四葉のクローバー運動の計画を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動の計画 ・ 必要な物、役割分担 ・ 協力のお願い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 羽月北小でできる支援の方法を考えさせる。 ・ 応援横断幕の制作の経験を生かす。
2次	2 押し葉と台紙の制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内の四葉のクローバーを探し押し葉にする。 ・ 押し葉を貼る台紙をパソコンで作る。(メッセージを添える) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 押し葉作りに必要な情報を準備する。 ・ メッセージは相手の立場にたったものにする。
3次	3 しおりの制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台紙と押し葉を合わせ、しおりを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台紙切り、クローバー、ラミネート、ラミネート切りと役割分担する。
4次	4 手紙を添えて発送する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お礼状をもらった学校へ発送する。 ・ 学校全員のメッセージを書く。 <p>※ 156枚送付（6月1日）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送料の確認 ・ 送付先の確認 (今回は福島市立福島第一小学校へ送る)

④ 活動の様子



パソコンで台紙作り



分担してしおり作り

⑤ 四葉のクローバーのしおり作り、送付を通して

- 応援横断幕の全員で1つのものを制作するという活動から、より個別に制作するという活動で一人一人の意識が高まった。
- 台紙にメッセージを入れることで相手の立場を考える態度が育ちつつある。
- パソコンの活用能力が高まった。
- 児童会活動の柱になる活動になった。
- 小規模の学校にあるもの、学校でできるもので無理のない取組ができた。
- 相手をはっきり意識して、目的や目標数など具体的に挙げることで意欲を継続できた。
- 他の学校にも協力をお願いすることで、同じように参加してくださる学校が増えている。
- 日赤鹿児島県支部を通して、被災地の学校との連絡を取ることができた。
- 総合的な学習の時間や学級活動、委員会活動と組み合わせて、活動を継続してきた。教育課程を一部変更するなど総合単元的な指導計画が必要である。
- しおり制作が最終的な目標ではなく、被災地の児童と一緒にになって前向きに生活していくという心情や態度を育成していくようにする。

(3) 被災地の状況を調べよう

① ねらい

- 東日本大震災によって被災地で生活する人々がどのような状況にあり、どのような支援を必要としているかを知る。
- これからの支援に必要なことを調べ、自分たちでできることを考え、発信する。

② 実施期日

当初計画 6月2日～7月15日

③ 活動計画

段階	活動内容	留意点等
1次	1 これからの支援の計画を話し合う。 <ul style="list-style-type: none">・ 運動の計画・ 調べる方法、内容	<ul style="list-style-type: none">・ 羽月北小でできる支援の方法を考えさせる。・ これまでの経験を生かす。
2次	2 被災地の状況について調べる。 <ul style="list-style-type: none">・ 被災地支援に行かれた方の話を聞く。・ 被災地でどこで、どのような支援が必要かをインターネット等で調べる。	<ul style="list-style-type: none">・ 伊佐市役所へ講師依頼・ 各サイトの支援者情報を調べる。
3次	3 これからの支援について話し合う。 <ul style="list-style-type: none">・ 発信する方法を考える。・ 自分たちでできる支援を決める。	<ul style="list-style-type: none">・ 学校HPやブログ等の活用・ 発信する相手を決める。

④ 活動の様子

○ 被災地支援に行かれた方の話を聞こう（6月2日）



4 これまでの支援活動を通して

羽月北小学校は全校で5名の児童、教職員である。「極小規模校であってもできる支援を。」という児童や教職員、保護者の願いをもとに支援活動を始めた。これまで本校は、青少年赤十字加盟校として活動をしていたが、その活動は校区や市内を対象にしたものに限られていた。それが今回の支援活動を通して、本来の青少年赤十字活動のあり方を学ぶことができた。

これまでの支援活動を通して学んだことは以下の通りである。

(1) 支援活動を通して、支援している自分たちが元気をもらっていること。

→ 福島市立福島第一小学校のお礼の手紙

(2) ボランティア活動を通して様々な人々とつながりあえること。

→ 支援に賛同してくださった地域の方々、青少年赤十字各支部、被災地の方々 等々

(3) どのような支援活動であっても、常に相手を意識して取り組むことで、ボランティア活動のよさを経験させることができる。

→ つらい経験をしてなおそれを乗り越えようとがんばっている人々がいるという意識

(4) 身近な学校や地域の実態を知り、それに合わせた活動を取り入れることで継続したものとなり、協力も得やすい。

→ 応援横断幕、クローバー、しおり

(5) ボランティア活動が学校の大きな柱になったこと。

→ これまでの取り組んでいる福祉教育 + ボランティア活動



伊佐市立羽月北小学校

住所：伊佐市大口白木1354番地37 〒895-2529

電話：0995-22-3114 fax 0995-22-3104

ホームページ <http://www5.synapse.ne.jp/es-hatsu-k/>